

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和6年度第2回益田市総合戦略審議会
開催日時	令和6年11月7日（木）14：30～17：00
開催場所	益田市役所3階 大会議室
出席者	○出席者 〔審議会委員〕 竹内直実会長、高田翼委員、杉本渉委員、坂根愛子委員、藤原眞砂委員、重親政継委員、田中麻里委員 〔事業担当課〕 農林水産課 中村参事、田代室長（匹見林業振興室） 産業支援センター 松本所長 観光交流課 城市課長補佐、島地主査 学校教育課 田原課長、杉原参事 協働のひとづくり推進課 岡崎課長、田淵主査 文化振興課 田中課長、中司主任 〔事務局〕 石川政策企画局長、田原政策企画課長、堀江総合戦略室長、吉田主任主事 ○欠席者 〔審議会委員〕 大屋剛副会長、澄川聡美委員、佐々木貴志委員
議題	1「総合戦略の検証」について 2「実績報告と評価」（10指標）
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121

審議経過

1. 開会 ○挨拶	
2. 審議内容	
(1)「総合戦略の検証」について	
事務局からの説明（資料1-1、1-2、1-3） ○検証の目的、検証作業について ・対象事業 R5年度でKPIが設定されている事業で「達成度が70%未満」のもの R3～R7年度までの累計でKPIが達成されている事業で「達成度が60%未満」のもの ※その他の事業（資料2-1：目標指標管理表）は、事業効果のあった継続事業として一括判定	
(2)「実績報告と評価」（資料2-1、2-2）	
○横断戦略「益田市で一週間程度、インターンシップや体験活動した延べ人数と満足度」 ○横断戦略「キャリア教育に参加した企業数」 対象事業：ひとづくり推進事業費（協働のひとづくり推進課）	
委員	①大学生等フィールドワーク（以下、FW）推進事業補助金の内容 ②中間組織の詳細について、同組織のインターン受入れ減 ③島根県（雇用政策課）の就職支援協定先（大学）との連携について教えてほしい。

協働のひとづくり推進課	①について FWを行うための交通費・宿泊費であり、一人当たり 20,000 円が上限である。 ②について 中間支援組織は「NPO法人 豊かな暮らしラボラトリー（以下、ユタラボ）」。 ユタラボはこれまでインターンの受入れを行ってきており、インターン終了後に同組織の職員になる人もいるため、組織の規模的に受入れ数が減っている。 ③について 県の就職支援協定について承知していなかったが、今後そうしたところとの連携も検討していきたい。
委員	目標指標のインターンシップ等の人数について、現在の集計対象が中間支援組織のみとなっているが、その他のインターンシップを受け入れている企業についてはどうか。
協働のひとづくり推進課	当初の設計は、ライフキャリア教育に市外の若者が関わる機会を創出するという視点で行われたものである。その他のインターンシップ受入れ企業については、今後の制度設計の際に検討することとしたい。
委員	④益田版職場体験の実施時期 ⑤未来の担い手育成コンソーシアムの詳細について教えてほしい。
協働のひとづくり推進課	④について 例年7月～9月に実施している。 ⑤について 構成団体は、益田商工会議所・益田商工会議所青年部・益田青年会議所・小中学校PTA連合会・私立幼稚園連合会・保育研究会・小中学校長会・市内4高校・養護学校・松江高専・島大などである。 活動については、各機関のライフキャリア教育に関わる取組の情報共有や、今年の夏に開催した夏フェスへの参加となる。
委員	①FW補助金を活かすための取組の内容 ②職場体験の受入れ事業所における「若者がチャレンジできる」取組の内容について教えてほしい。
協働のひとづくり推進課	①について この事業の中にある「小中高生ライフキャリア教育推進事業」や「ロールモデル接続事業」の取組を通じ、大学生等が地域方々と触れ合うことで（本市に対する）興味関心の感覚が高くなっている。 ②について キャリア教育ではなく、ライフキャリア教育という視点で、事業者の方々の価値観に触れるため対話を中心としたプログラムとなっている。
委員	職場体験の受入れを申し込んだ事業数と実際に参加した事業数の差について教えてほしい。
協働のひとづくり推進課	申し込み企業は150程度であったが、日程や学校側の希望を考慮して調整した結果、実際に実施したのは138事業者となった。 目標の250事業者は、かなり高いが、生徒にとって選択肢は多い方が良いので、コンソーシアム等を活用しながら情報発信していく。
委員	①インターンの受入れがUIターンへ繋がったか ②FW補助金を利用するための要件について教えてほしい。
協働のひとづくり推進課	①について インターン後の状況について、全体的には把握をしていない。中間支援組織において、インターンから同組織に就職した方が何人かいることは確認している。今後はそうした点にも注視していきたい。 ②について 活動が観光振興や特産品開発、定住促進対策等の地域課題に関するもので、市外の大学生等に補助するものである。

委員	FWによる意識の変容が読み取れるようなアンケート調査等を行っているか教えてほしい。
協働のひとづくり推進課	補助金申請にあたり、活動の目的や活動時期などは把握している。また、受入れ後に活動報告書を提出してもらい、本市で学んだことや感じた事などを報告いただいている。
委員	ホームページやSNSでの情報発信に加え、大学生と関わりのある機関へアプローチして、取組のPRを行ってほしい。
【評価】	別紙のとおり
○横断戦略「先端技術を活用した市内での新規事業」 対象事業：先端開発推進事業費（産業支援センター）	
委員	市内に先端技術をもつ企業が進出すれば、地域の活性化につながる。企業の誘致に関しても、通信環境等の環境整備に努めてほしい。
産業支援センター	企業誘致にあたり、環境整備は重要と考える。県とも連携しながら環境についても整備していきたい。
委員	①積算根拠にある委託料の用途 ②4件の実証実験の事業化について教えてほしい。
産業支援センター	①について 設備の導入や設置に係る業務などである。 ②について 4件の中には令和元年から国交省の事業を活用して継続している事業もあるが、事業化となるとまだ時間がかかる。 今年度から補助金の要綱を一部変更し、他で成功している事例を益田市で展開する場合も認めるなど間口を広げている。今後も企業と連携しながら取り組んでいきたい。
【評価】	別紙のとおり
○基本戦略1「新規就農者」 対象事業：里の守り人づくり事業費 ：森の守り人づくり事業費 ：ハウス等整備事業費（農林水産課）	
委員	①令和5年度実績が令和4年度実績を下回った理由 ②令和6年度の就農者の状況 ③「森の守り人づくり事業」の自己評価「費用対効果」をDとした理由について教えてほしい。
農林水産課	①について コロナ禍が終わり、若者の志向が農業以外の産業に向いていると感じる。 ②について 自営の新規就農が3名の予定。また、今年度研修を受けているのは10名程度で、今後この方々を就農に導けるよう取り組んでいく。 ③について 令和3年度に2名の益田市への定着があつて以降、実績がないことを踏まえて評価した。
委員	就農者にはUIターン者も含まれるか教えてほしい。
農林水産課	ここ数年はUIターンの方の就農比率が高まっていると感じている。
委員	自営就農するためのサポートについて教えてほしい。
農林水産課	産業体験（1年間）後に即就農という事例もあるが、産業体験から研修者向けの研修にうつり、2年間研修を受けるケースもある。利用者の希望を聞きながら就農に導けるように引き続き取り組んでいきたい。

委員	①就農者の年齢層 ②研修受講後の市外への転出 について教えてほしい。
農林水産課	①について 認定農業者は 20～30 代が多いが、40～50 代の相談もある。 ②について 研修利用者は益田市に残る人が多い。
【評 価】	別紙のとおり
○基本戦略 1 「市内の歴史文化施設（萬福寺、医光寺、雪舟の郷記念館）」の拝観・観覧者数 対象事業：歴史を活かしたまちづくり魅力発信・調査研究事業費 (文化振興課)	
委員	①ガイドの人数 ②中学生ガイドのような市民参加型のガイドの効果 について教えてほしい。
文化振興課	①について 全体で 20 人程度であるが、高齢化が進んでいる。 ②について 中学生ガイドは参加者の満足度が高かった。学校行事の位置づけであるため 展開が難しいが、そうした取組を進めながらガイドの育成をしていきたい。
委員	益田市文化財保存活用地域計画の中に保全の内容は含まれているか教えてほ しい。
文化振興課	この計画は文化財の保全を前提としつつ、地域活性化のため活用していくと いうもの。
委員	山城サミットの開催により、K P I の達成は可能か。
文化振興課	K P I の達成については、山城サミットの城下町を回るイベントで、萬福寺 や医光寺に多く入ってもらえれば、ある程度の積み上げはできるかと思うが、 今年度から雪舟の郷記念館（来館者：5,000 人/年）が改修のため休館となっ ているため、厳しい状況にある。
事務局	K P I 設定当初は、雪舟の郷記念館の休館は想定していなかったため、現状 を考えると達成は難しいと思われる。 評価も非常に難しいかと思うが、今回は外的な要因もあったことも踏まえ、 事業の進め方と K P I 達成状況の判断を分けて評価いただくのはいかがか。
委員	評価（「④今後の方向性について」）に関して、DかEか明確にすることが難 しいため、この事業に関してはD（取組の改善）及びE（K P I の見直し）と する事が適当と考えるが、他の委員はいかがか。
各委員	上記について了承
【評 価】	別紙のとおり
○基本戦略 1 「歴史文化交流館の収益事業による収益額」 「交流活動ルームで創出された観光体験コンテンツ等の数」 対象事業：歴史文化交流館管理運営経費（観光交流課）	
委員	①収益を上げるための具体的な取組 ②令和 6 年度の観光体験コンテンツ等の状況 について教えてほしい。
観光交流課	①について 歴史文化交流館の改修計画時には、同館内に喫茶店を設置するなど、現状と 異なるもので、K P I 設定においても、喫茶店収入を見込んでいた。 そうした状況ではあるが、今年度から企画展の有料化や交流活動ルームの利 用（有料）を増やすなどに取り組んでいるところ。 ②について 今年度は現時点で 4 件の活動報告がある。

	指定管理者や市の関係各課との連絡調整会議を行っているので、その中で状況等を把握しながら対応を考えていきたい。
委員	歴史文化交流館が開館したことにより、同館を中心に周遊できるようになった旨の記載が事業シート№7（歴史を活かしたまちづくり魅力発信・調査研究事業費/文化振興課）にあるため、相乗効果を期待したい。 令和7年度に向け、イベント等の企画をしているか教えてほしい。
観光交流課	他課が関連施設でイベントを検討しているので、それに関連して歴史文化交流館にも寄ってもらう形を模索している。
【評価】	別紙のとおり
○基本戦略1「魅力あるサイクリングイベント実施回数」 対象事業：自転車活用推進事業費（観光交流課）	
委員	①補助の具体的内容と周知方法 ②令和6年度のイベントの状況について教えてほしい。
観光交流課	①について 各団体がイベントを開催する際に係る経費（講師の報酬や印刷物など）を対象として補助するもの。 周知方法については、公式ウェブサイトのほか、この補助を活用できそうな団体への情報提供を行っている。 ②について 現時点で補助を活用したものは4件。
委員	③補助の上限額について教えてほしい。
観光交流課	③について 1団体あたり15万円であり、年間5～6件を見込んでいる。
【評価】	別紙のとおり
○基本戦略2「埼玉県方式学力テスト（個人の伸びを図るテスト）での1年間で伸びたレベル数（受検児童生徒平均）」 対象事業：学力育成推進事業費（学校教育課）	
委員	タブレットの活用によって生じた児童生徒の成績等への変化について教えてほしい。
学校教育課	タブレットが導入されて間もないため、成績との相関のようなデータはまだない。現在、学校教育課では、「気づきと対話のある授業づくり推進事業」を行っており、タブレットを気づきと対話を生むきっかけ、手段として活用しているところ。
【評価】	別紙のとおり
○基本戦略1「山陰自動車道（三隅・益田道路）の整備延長」 対象事業：国県事業推進経費 国県事業負担金（都市整備課）	
【評価】	別紙のとおり
○その他の目標指標について 事業効果のあった継続事業として一括判定 ※判定は各指標の達成状況による（詳細は別紙「総合戦略検証評価一覧表」のとおり）	
3. その他	
委員	現在、設定されているKPIの上方修正はあり得るか。
事務局	頂いた意見も踏まえ、次期戦略の策定時に内容を検討したい。現時点で目標達成をしているものについては、達成しているとしても現状より、さらに良く

	なるよう事業を進めていく。
--	---------------